

2024年2月27日号

山口県の新年度予算案少子化対策に370億円

1分でわかる！

会社を成長させるための

桑原事務所メルマガ通信

おはようございます。桑原事務所の入江です。

今号は、保育と幼児教育にとって重要な「山口県の少子化」について取り上げます。

このたび県は2024年度の当初予算案を発表しました。

人口減少への対応を最重要課題と位置付けており、第2子以降の保育料無償化などの少子化対策に力を入れる内容となっています。子育て世帯にとって大きな支援となればいいですね！

まずは、具体的な子ども・子育て関連事業の取り組みを確認しておきましょう。

○保育料無償化の拡充

- ・現在、国の政策では3歳から5歳までの保育料は子供の人数によらず無償化されていますが、新年度からは県と市町村が折半し、第2子以降の3歳未満の保育料を完全無償化（9月から）。

○保育士支援策

- ・保育士を目指す人々の修学資金返還免除制度を拡大して、保育士の確保を支援。

○不妊治療の支援

- ・生殖補助医療と先進医療の自己負担分を県が助成（補助額、回数、対象金額制限あり）。

また、山口県は47都道府県庁の中で、男性職員の育休取得率が最下位となっていることから、2025年度までに男性職員の育休取得率を100%とする目標を新たに設定し、県内各市町村も男性職員の長期育休取得率100%を目指すと言っています。さらに、民間企業にも男性の長期育休取得を促進するため、最大180万円の奨励金を支給するなどの「共育て」支援などの取り組みが行われる予定です。

行政は少子化対策として色々な事業に取り組んでいますが、私たち企業側の支援はどうでしょうか？

専業主婦家庭が一般的だった1980年代「亭主元気で留守がいい」という言葉が流行。夫が元気で外出している方が、家事や育児などの負担を抱える妻にとっては都合が良い、という意味で使われていました。

現在では夫婦共働きが一般化しましたが、まだまだ女性の役割が大きいです。

山口県の女性の家事・育児時間は、男性と比べ家事で4倍以上、育児で3倍以上の差があり、女性に負担が大きく偏っているというデータがあります。（6歳未満の子を持つ夫婦の家事・育児時間の調査等）また「男性育休白書2021」の「男性の家事・育児全国ランキング2021」において山口県の順位は最下位から2番目の46位だったそうです。

「亭主元気で留守がいい」時代から40年経った現在、子育て世代の親の中で朝から晩まで子供の世話や家事を一人でこなすママたちの「ワンオペ育児」が問題となっています。

この孤独や辛さの「ワンオペ育児」問題を解決するためには、私たち企業側も現実を理解し、今までの意識を変えて「共育て（ともぞでて）」に参加する必要があります。まずは育児休業を取りやすい職場づくり、働き方改革を進めて参りましょう。

ご不明点等ございましたら、お気軽に当事務所までご連絡ください。

よろしくお願いいたします。

社会保険労務士法人桑原事務所

〒747-0064 山口県防府市高井 1143-1

[TEL:0835-22-6706](tel:0835-22-6706)

FAX:0835-26-0023

MAIL: info@kuwasr.net
